



内地留学奨学金希望者募集

昭和56年度の内地留学奨学金を希望される方は9月30日までに所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内 日本

天文学会理事長宛にお申し込み下さい。応募用紙は庶務理事に御請求下さい。なお奨学金として支給可能額は総会記事中の昭和56年度予算の内地留学奨学金特別会計を参照して下さい。

お知らせ

第14回日本アマチュア天文研究発表大会

昭和56年10月25日(日)9時より 富山市吉作城山「羽野ハイツ」(Tel 0764-36-0191)にて、発表申し込みは8月20日迄に800字程のアプストラクトをつけて 富山市西中野町 3-1-19 富山市科学文化センター内 富山県天文学会事務局宛

日本学術会議天文学研究連絡委員会の委員

第12期の天文研連の委員の選挙はIAUのGeneral Membersによって行われ、次の20名が当選した。小田 稔, 海野和三郎, 小平桂一, 小暮智一, 杉本大一郎, 早川幸男, 川口市郎, 森本雅樹, 高窪啓弥, 奥田治之, 田中春夫, 林忠四郎, 内田 豊, 北村正利, 寿岳 潤, 高瀬文志郎, 守山史生, 青木信仰, 海部宣男, 坪川家恒

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価380円(〒70円) '81-9月号・8月5日発売!

●9月号のおもな内容

- ★8月12日はペルセウス座流星群の極大日。今年も好条件のこの観測ガイドを、おなじみの藤井旭さんから。
- ★自分が持っているカメラのレンズのクセや特長を、簡単に調べる方法はないものか……?
- ★連載中の「近づくハレー彗星」はいよいよ、接近に対する情報です。いつ、どの方向から接近してくるのか、最も条件の良い時はいつかなどにくわしく答えます。
- ★天体写真撮影のもっともむずかしいオートガイドについて、平林さんがアメリカの機械を紹介しながら……
- ★藤井旭さんのニュージーランド星の旅、ハーシェル博物館訪問記など。

写真で見る銀河系の星雲・星団II 球状星団・惑星状星雲 散光星雲・暗黒星雲

我われの住む太陽系を含む銀河系には、多くの星雲・星団があります。この本は、アマチュア天文写真家No.1といわれる古田俊正氏の31cm反射鏡による美しい天体写真集です。

この巻では、球状星団、惑星状星雲、散光星雲、暗黒星雲を105枚の写真で紹介いたします。特に、暗黒星雲をまとめて取りあげた本は、これがはじめてです。

●古田俊正著/B6判・128ページ・定価700円発売中

写真で見る銀河系の星雲・星団I 散開星団

●古田俊正著/B6判・120ページ・定価700円発売中

写真で見る自作天体望遠鏡

●天文ガイド編/B6判・128ページ・定価700円発売中

の諸氏であった。なお次点は坂下志郎氏である。以上20名に学会議会議会員の古在由秀が加わって委員会を構成するが、期の途中で定員の増減の可能性がある。

**東京天文台助手公募**

東京天文台では次の通り助手3名を公募します。

東京天文台長 古在由秀

(1) 野辺山宇宙電波観測所に所属する助手2名

分野: 電波天文学

仕事の内容: 長野県野辺山で建設中の電波望遠鏡による観測的研究および装置開発に従事する。なお完成後は現地勤務となる。

応募資格: 大学院修士課程修了相当以上

提出書類: 履歴書, 論文リストおよび別刷(共著の場合は分担した役割を明記), 研究上の抱負(簡潔に)

公募締切: 1981年9月5日(土)

宛先および連絡先: 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

東京天文台 高瀬文志郎

その他: 封筒の表に「宇宙電波助手応募書類在中」と朱記すること。

(2) 人工天体運動部に所属する助手1名

研究分野: 天体力学, 位置天文学, 銀河力学の理論

応募資格: 大学院修士課程修了相当以上

提出書類: 履歴書, 論文リストおよび別刷, 研究上の抱負, および推薦書

公募締切: 1981年9月5日(土)

着任: 決定後なるべく早い時期

公募書類宛先: 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京

天文台 内田 豊

その他: 封筒の表に「人工天体運動助手応募書類在中」と朱記のこと。なおこの公募に関しての問合せは東京天文台 青木信仰まで。

**豆 辞 典**

**ス プ レ イ**

フレア・スプレイともいう。すでに活動領域紅炎として存在した低温物質(≈10<sup>4</sup>K)が,フレア発生にともなうて数分のうちに400 km/s以上に加速されてできた一種の放出型紅炎である。しばしば太陽の脱出速度(約600 km/s)を越え,中には1000 km/s以上に達するものもある。

以前の観測では,その見かけからフレア爆発で加速された物質が磁力線をつき破りながら飛んでゆくというイメージが持たれ,単にサージの大規模なものと考えた人が多かった。(サージは磁力線に沿ったジェット状紅炎であり,速度は100-200 km/sである。)しかし,最近の詳しい観測によると,放出された物質は実はループ状になっていることが明らかになり,サージとは全く異なる機構,むしろ静穏型紅炎の最期をいづる Disruption Brusque (=eruptive prominence)と同じ機構で形成されるのではないかという考えが有力になりつつある。(その機構としては,ねじれた磁束管のMHD不安定が提唱されている。)ただし,スプレイの観測事実をよく再現するMHDモデルはまだ作られていないし,また,フレアと密接に関係しているだけに,磁力線のつながりなどの効果やフレア発生時に解放された熱,それにとまなうガス圧増大や衝撃波の発生,なども何らかの寄与をしているかも知れず,問題はそう単純ではないように思われる。(柴田一成)

☆ ☆ ☆

1981年5月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	15,	168	6	—,	—	11	—,	—	16	13,	141	21	9,	60	26	13,	100
2	17,	110	7	—,	—	12	—,	—	17	—,	—	22	15,	67	27	10,	97
3	15,	95	8	21,	192	13	16,	139	18	10,	137	23	14,	66	28	—,	—
4	—,	—	9	18,	128	14	15,	137	19	—,	—	24	—,	—	29	8,	75
5	17,	129	10	—,	—	15	14,	148	20	—,	—	25	12,	69	30	6,	91
															31	7,	60

(相対数月平均値: 171.9)

昭和56年7月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595